



# 安芸高田市施策評価シート（平成25年度施策）

評価対象 施策名	文化活動の推進	施策コード	作成者	所属	教育委員会事務局 文化・スポーツ振興室
		45015		役職・氏名	室長 高松 正之
				電話	0826-42-5629

## 1. 施策の現状分析及び意図

総合計画 (基本計画)体系	基本方針	Ⅱ心豊かで創造性に富んだまちづくり
	主要施策	4.文化・スポーツ・レクリエーションの振興

① 住民意識調査結果	文化事業実施時、来場者アンケートを実施	② 左記結果に対する現状分析、住民との協議結果 文化事業実施時に参加者アンケートを実施しているが、市民ニーズは超一流の優れた芸能を求められている。 〔事業実施時参加者アンケート〕
③ 施策の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内には各町文化協会や公民館教室を中心に、様々な団体・グループが、文化活動を行われていますが、構成員の高齢化が進んでおり、団塊の世代等への啓発をはじめ、文化活動の活性化が必要である。</li> <li>市民の文化活動への参加や発表の機会を増大に向け、これまで市文化団体連合会と連携して、市民文化祭(文化芸術の祭典・展示芸術の祭典)をはじめ様々なジャンルの文化事業を実施しているが、市民一人ひとりが心豊かで生きがいを持つよう今後も文化活動の支援が必要である。</li> <li>市民が優れた芸術文化に触れ合っていたり、市民文化センターをはじめ市内の文化ホールの活用を図りながら、NHK公開録画や宝くじ文化公演事業等を積極的に活用して質の高い文化芸術の振興を図る。</li> </ul>	
④ 施策の意図、今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>①市民の自主的な文化活動を支援するとともに、市民文化祭等を開催し、市民が気楽に文化活動ができる場や機会を提供する。</li> <li>②市民が優れた芸術文化に親しむことができるよう、音楽・演劇などの鑑賞機会の拡充を図る。</li> <li>③安芸高田市民の芸術文化活動の拠点施設として八千代の丘美術館の充実を図り、市内唯一の美術館として市内外に安芸高田市の芸術の情報発信を行う。</li> </ul>	

## 2. 施策指標の検討・設定

現状の課題、意図、今後の展望のキーワード	考えられる施策指標候補	重点化
質の高い文化事業の実施	買取公演事業予算の確保	
八千代の丘美術館事業の充実と入館者の増	八千代の丘美術館入館者の確保	
美術館寄贈作品の活用 (街がまるごと美術館事業の展開)	寄贈作品の市内貸出し事業所数、貸出し寄贈作品数	★

施策指標名	単位	評価値の推移			目標値		他団体等の状況	指標の説明
		H23	H24	H25	H26	H28		
買取公演事業予算	目標	千円	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	
	実績		5,400	5,200	5,000	—	—	
	達成率	%	54.0%	52.0%	50.0%	—	—	
八千代の丘美術館入館者数	目標	人	14,000	14,000	14,000	14,000	14,000	
	実績		18,392	14,017	11,357	—	—	
	達成率	%	131.4%	100.1%	81.1%	—	—	
街がまるごと美術館事業 八千代の丘美術館寄贈 作品貸出作品数	目標	点	—	—	20	25	25	
	実績		—	—	19	—	—	
	達成率	%			95.0%	—	—	
	目標							
	実績							
	達成率	%						

## 3. 施策構成事務事業の評価

事業種類 経費区分	CD	事務事業名	主な予算科目	H24決算	H25決算	H26予算	人員数(H25) 人件費	重要度	優先度	備考
				うち一財	うち一財	うち一財				
既存 ソフト事業	190	芸術文化振興事業	1・10・5・9・1・3	6,064 4,151	8,137 5,989	8,590 7,390	2.53 20,785	高い	前年度並み配分	
既存 ソフト事業	191	美術館管理運営事業	1・10・5・9・1・4	26,061 23,911	24,450 22,663	22,041 20,058	0.52 4,272	高い	前年度並み配分	
合計				32,125 28,062	32,587 28,652	30,631 27,448	3.05 25,057			

## 4. 3以外で目的達成に必要な新規事業及び連携させる他機関の事業

事業主体	新規又は連携が必要な事務事業	説明

## 5. 施策の現状分析に基づく改革案の説明

評価視点	評価コメント
① 施策指標の分析	芸術文化事業の買取公演事業については、予算的視点では無く、他の視点で評価をしていくべき。美術館については、入館者数減少の原因を的確に抑える必要がある。
② 平成26年度以降の課題 (事務事業構成、役割分担)	芸術文化振興事業については、事業のスクラップ&ビルドを進めるとともに、自主文化事業を実施できる組織を育成していく必要がある。美術館運営については、市民入館者の増が図れる仕組みを構築するとともに、寄贈作品の有効活用を図っていく必要がある。
③ 総合評価 (今後の展開、事務事業の見直し等)	自主的な文化活動を推進するとともに、支援する仕組みづくりが必要。高齢化社会の更なる進展に伴う行政支援の在り方を見直す必要がある。

政策への貢献度	普通	教育次長	(氏名)	沖野 和明
---------	----	------	------	-------





安芸高田市施策評価シート（平成25年度施策）

評価対象 施策名	スポーツ・レクリエーション活動の推進	施策コード	作成者	所属	教育委員会事務局 文化・スポーツ振興室
		45018		役職・氏名	室長 高松 正之
				電話	0826-42-5629

1. 施策の現状分析及び意図

総合計画 (基本計画)体系	基本方針	Ⅱ心豊かで創造性に富んだまちづくり
	主要施策	4.文化・スポーツ・レクリエーションの振興

① 住民意識調査結果	安芸高田市内の小・中・高校生(720人)と市内企業就業者(493人)のアンケートの結果、運動スポーツ活動状況では、36.4%がスポーツをする回答、1年間スポーツ活動をしなかった市民が30.5%と約1/3である。やってみようという市民はゴルフ・ウォーキング散歩が上位を占めている。[スポーツ振興計画時アンケート]	② 左記結果に対する現状分析、住民との協議結果 スポーツ行事へ参加しないが2割近くあるが、スポーツ観戦・応援には43.4%が参加したいとの意向があり、地元プロスポーツ(サンフレ・湧永ハンドボール)観戦事業も積極的に実施したい。
③ 施策の現状と課題	①安芸高田市の特色あるスポーツである、サッカー・ハンドボール・カヌー・BMXなどのスポーツを通して市民との一体感醸成とスポーツの普及のため、サンフレッチェエスパルスやハンドボール日本リーグに大規模な応援団を組んできた。今後は更に全市を挙げた取り組みとするため、年度当初から企画し、底辺の拡大に努める。 ②一人1スポーツの推進にむけ、子どもから高齢者まで、広く市民がスポーツに親しめるよう総合型地域スポーツクラブの育成支援を進め、現在市内には総合型スポーツクラブが2団体となった。 ③子どもたちのスポーツの振興・技術向上にむけ、トップアスリートによる指導事業の実施が必要。	
④ 施策の意図、今後の展望	①生涯を通じ、いつでも、どこでも、誰でも多くの市民がスポーツに親しむことができるよう、スポーツ少年団、体育協会、総合型地域スポーツクラブ等スポーツ振興団体の育成支援を図る。 ②安芸高田市の特色あるスポーツである、サッカー・ハンドボール・カヌー・アーチェリー・BMXなどのスポーツを支援し市民への振興を図る。 ③各世代あるいは一人ひとりの運動能力にあったスポーツを提供し、全市民が健康で楽しく生きがいを感じられる「一人スポーツ」を推進します。 ④子どものスポーツ振興に向けて、トップス広島によるアスリート交流事業の実施。	

2. 施策指標の検討・設定

現状の課題、意図、今後の展望のキーワード	考えられる施策指標候補	重点化
スポーツ振興団体を育成支援し、スポーツ人口の拡大を行う。	一人一スポーツの推進	
市の特性を活かしたスポーツの振興	トップチーム(サンフレッチェ広島・湧永レオリック)への応援、カヌー・BMX等の普及と振興	

施策指標名	単位	評価値の推移			目標値		他団体等の状況	指標の説明
		H23	H24	H25	H26	H28		
スポーツ団体会員数	目標	3,400	3,500	3,500	3,500	4,000		
	実績	2,914	2,900	2,900	—	—		
	達成率	85.7%	82.9%	82.9%	—	—		
スポーツ教室参加者数	目標	4,500	4,500	5,000	5,000	5,000		
	実績	4,000	5,000	5,000	—	—		
	達成率	88.9%	111.1%	100.0%	—	—		
スポーツ応援事業参加者数	目標	2,000	2,500	3,000	3,000	3,000		
	実績	3,232	4,446	2,486	—	—		
	達成率	161.6%	177.9%	82.9%	—	—		
スポーツ活動指導者数	目標	157	158	158	160	160		
	実績	146	150	152	—	—		
	達成率	93.0%	94.9%	96.2%	—	—		

3. 施策構成事務事業の評価

事業種類 経費区分	CD	事務事業名	主な予算科目	H24決算	H25決算	H26予算	人員数(H25) 人件費	重要度	優先度	備考
				うち一財	うち一財	うち一財				
既存 ソフト事業	204	生涯スポーツ推進事業	1・10・6・1・1・2	1,606	3,359	1,940	0.75	高い	前年度並み配分	
				1,606	2,359	1,940	6,162			
既存 補助金・負担金	205	スポーツ振興団体育成事業	1・10・6・2・1・1	16,871	10,996	12,261	0.45	高い	前年度並み配分	
				11,363	10,996	12,261	3,697			
既存 ソフト事業	206	スポーツ教室・大会等開催事業	1・10・6・2・2・1	6,908	7,746	7,778	0.95	高い	前年度並み配分	
				6,820	7,732	7,673	7,805			
既存 ソフト事業	207	スポーツ指導者等育成事業	1・10・6・2・3・1	755	601	1,049	0.30	高い	前年度並み配分	
				755	601	1,049	2,465			
合計				26,140	22,702	23,028	2.45			
				20,544	21,688	22,923	20,129			

4. 3以外で目的達成に必要な新規事業及び連携させる他機関の事業

事業主体	新規又は連携が必要な事務事業	説明
安芸高田市(保健医療課)	健康づくり事業	

5. 施策の現状分析に基づく改革案の説明

評価視点	評価コメント
① 施策指標の分析	市民健康増進事業の取り組みもあり、一人一スポーツに親しむ環境づくりは必要。
② 平成26年度以降の課題(事務事業構成、役割分担)	厳しい財政状況を鑑み、自助・共助・公助の役割分担を整理し、文化芸術関係との整合性を図り、スポーツ活動を支援する仕組みを見直す必要がある。
③ 総合評価(今後の展開、事務事業の見直し等)	自主的なスポーツ活動を支援する仕組みに見直す。自助の考え方を導入し、自己負担の見直しを行う。

政策への貢献度	普通	教育次長	(氏名)	沖野 和明
---------	----	------	------	-------

安芸高田市施策評価シート（平成25年度施策）

評価対象 施策名	スポーツ・レクリエーション施設の整備	施策コード	作成者	所属	教育委員会事務局 文化・スポーツ振興室
		45019		役職・氏名	室長 高松 正之
				電話	0826-42-5629

1. 施策の現状分析及び意図

総合計画 (基本計画)体系	基本方針	Ⅱ心豊かで創造性に富んだまちづくり
	主要施策	4.文化・スポーツ・レクリエーションの振興

① 住民意識調査結果	安芸高田市内の小・中・高校生(720人)と市内企業就業者(493人)のアンケートの結果、施設整備状況については、施設が古く設備が悪いと思っている市民が24.8%、施設が古く設備が悪いと思っていない市民が75.2%であり、利用料についても高いと思っている市民が26.5%、高いとは思っていない市民が73.5%である	② 左記結果に対する現状分析、住民との協議結果
③ 施策の現状と課題	市内には、運動公園、サッカー公園、体育館、温水プールなどのスポーツ施設のほかゴルフ場、カヌー・アーチェリー場、BMX場など多様なスポーツレクリエーションに親しむ場が整備されている。 ②運動公園、サッカー公園、温水プール、B&G海洋センターなど主要施設は、指定管理を行い安定した施設管理を行っている。また、総合型スポーツクラブを中心とした利用者の連携で、利用率の高い施設となっている。 ③B&G海洋センタープールや市民プール、市内の体育施設は老朽化が進み、早急な修繕や廃止が必要である。	
④ 施策の意図、今後の展望	①既存のスポーツ・レクリエーション施設について、管理運営を充実するとともに、計画的な改修や整理統合を図る必要がある。 ②B&G海洋センタープールや市民プール、市内の体育施設は老朽化が進み、早急な修繕や整理統合廃止が必要である。 ③向原運動広場などの集落単位のコミュニティー機能を持った施設は、その管理を地域に委ねる必要がある。	

2. 施策指標の検討・設定

現状の課題、意図、今後の展望のキーワード	考えられる施策指標候補	重点化
主要施設を核として学校や地域の体育施設を有効活用する。	既存施設の有効活用	
老朽化した市内のスポーツ施設の計画的な改修や整理統合及び廃止を検討する。	老朽施設の改修整備並びに整理統合・廃止	

施策指標名	単位	評価値の推移			目標値		他団体等の状況	指標の説明
		H23	H24	H25	H26	H28		
主要体育施設の利用者数(指定管理体育施設の利用者数)	目標	人	230,000	230,000	230,000	230,000	230,000	
	実績		210,000	229,966	232,496	—	—	
	達成率	%	91.3%	99.9%	101.1%	—	—	
	目標							
	実績							
	達成率	%						
	目標							
	実績							
	達成率	%						

3. 施策構成事務事業の評価

事業種類 経費区分	CD	事務事業名	主な予算科目	H24決算	H25決算	H26予算	人員数(H25) 人件費	重要度	優先度	備考
				うち一財	うち一財	うち一財				
既存 施設維持管理	208	社会体育施設管理運営事業	1・10・6・1・1・3	199,582	207,681	198,130	1.55	普通	前年度並み配分	
				157,533	205,181	161,152	12,734			
合計				199,582	207,681	198,130	1.55			
				157,533	205,181	161,152	12,734			

4. 3以外で目的達成に必要な新規事業及び連携させる他機関の事業

事業主体	新規又は連携が必要な事務事業	説明

5. 施策の現状分析に基づく改革案の説明

評価視点	評価コメント
① 施策指標の分析	指定管理施設を中心として、安定的な利用状況となっている。
② 平成26年度以降の課題(事務事業構成、役割分担)	各施設とも、老朽化が進んでいる。社会体育施設の適正配置並びに施設使用料の見直しが必要。 各スポーツ振興団体に対する補助金を精査する必要がある。
③ 総合評価(今後の展開、事務事業の見直し等)	将来にわたって管理すべき施設と整理統合を図るべき施設の統廃合を進め、継続的に維持すべき施設については、年次改修計画を策定する必要がある。併せて、条例の見直しが必要である。

政策への貢献度	普通	教育次長	(氏名)	沖野 和明
---------	----	------	------	-------